

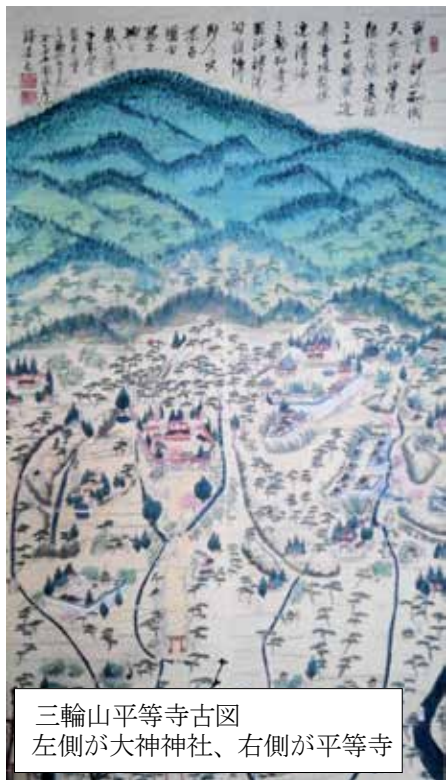
平等寺だより

報恩の道

住職 丸子 孝法

大本山永平寺の副監院に就任して2年半になりました。他の役寮の諸老師・修行僧の皆さまに支えられ、及ばずながら精進致しております。平等寺の副住職や寺族も檀信徒の皆さまのお力添えをいただきながら勤めております。ここにすべ

ての方々に心から感謝申し上げます。禅といえばここ、永平寺。禅師さまは、「普勸坐禅儀」



三輪山平等寺古図
左側が大神神社、右側が平等寺

（国宝）の中で、「坐禅は習禅にあらず、ただこれ安楽の法門なり」と示されました。

最近、坐禅についてさまざまな研究が進み、大変なことが解つてまいりました。東京大学の平井富雄先生の

の研究結果で解つてまいりました。

「坐禅における脳波学的研究」によると、坐禅をする

と誰でも脳波がきれいに調うのです。それも何十年と坐禅を続けた方と初心者が同じ結果が出ました。また、我々の脳の中には三つの神経があつて、プラス思考のドーパミン神経、マイナス思考のノルアドレナリン神経、そしてプラスとマイナスを整えるセロトニン神経がある。その最も重要な心の安定につながるセロトニン神経が、坐禅をすると活性化するということが東邦大学医学部の有田秀穂先生

の研究結果で解つてまいりました。坐禅という字は、示辺に単と書きます。単を示す。要するにシンプルになる、それになりきることです。永平寺の日々の修行は、坐禅・朝課・行鉢・作務・食事の準備をすることも食事そのことも、すべてが修行です。そのことになりきることが禅の修行です。

夏は永平寺は3時半振鈴、冬場は4時半となりますが、古希に近い私は半時間前に目覚めてしまいます。夜は九時開枕ですが、少し時間にゆとりのある時は漢詩を作ったり、絵を画いたりし

ます。2022年は平等寺の中興開山・慶円禅観大和尚さまの800回忌を迎えます。今回これを記念し、丹羽廉芳禅師さまの本堂落慶法語と三輪山平等寺の由緒を石に刻んでいただき安置いたしました。また、旧平等寺所蔵の三輪山古図や慶円さまの頂相を色墨で仕上げてみました。温故知新とはいいますが、すべて報恩の道であります。



丹羽廉芳禅師さまの本堂落慶法語



由緒

発行

☎633-0001
桜井市三輪38
三輪山平等寺
TEL/FAX
0744-42-6033
<http://www.byodoji.com/>

中興の祖
三輪上人慶円さま



三輪上人・慶円禅観大和尚像

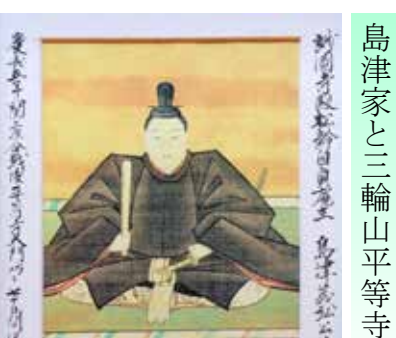
慶円さまは1140年にお生まれになりましたが、その時すでに眉間に琥珀色の肉が出ていて、お釈迦さまの白毫大丈夫の相のようであったと伝えられています。

ぞ常に保つべけんや」といわれたそうです。

和州(奈良)の吉野の堯仁阿闍梨について修行し安倍寺で修行を重ね、三輪山遍照院にうつられ、1204年、差別のない平等の世の中を願求して『三輪山平等寺』と改号されたのです。慶円さまは、生まれつき慈悲の心あつく、すべての人を救う神仏のような思いをおもちのお方でありました。

まだ夜もあけぬ朝、平等寺のみ仏にお供えするあかいの溪水を汲みにいかれた時、三輪明神が貴女の姿になって石上にあられわれ、慶円さまと問答をなさるのでした。慶円さまが「あなたさまのお名前をおきかせ下さい」と尋ねると、貴女は、「こ

の山の杉です」とお答えになり、自ら「おのづかにいわきをおのがすがたにて、かげはずかしきみむろやまかな」と詠ぜられ、御身を消されたといわれます。



島津義弘公

島津家と三輪山平等寺

この31文字の和歌が平等寺のご詠歌として伝えられております。

慶円さまは、仏教各宗のご開山と同格に、わが国最初の仏教史書「元亨釈書」(ゲンコウシヤクシヨ)に出ている高僧で、そのご一代が明らかであります。三輪山平等寺中興の祖として、また三輪流神道の祖として、正法の興隆につくされた慶円さまは、1223年正月27日遷化され、84歳の尊いご一代に幕をおとされました。

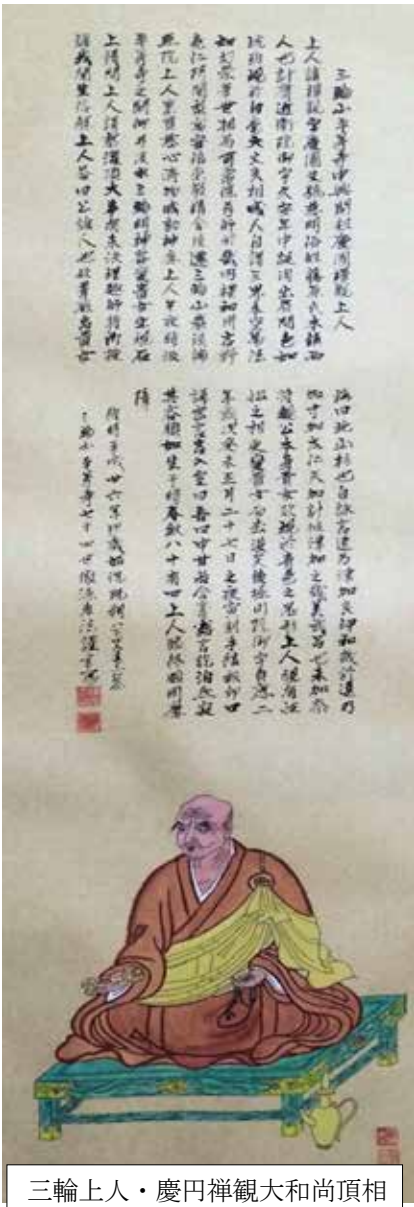
仏の慈悲心をもって追っ手を追い返した。しかも、かくまった場所は平等寺二の門の左側、大門坊。入り口から最も近い所でありました。

一向は11月28日までの70日間逗留し、住職から帰りの舟をかうお金、銀一貫目(約4キロ)を借りた。竹の内峠まで平等寺の僧に護衛され、堺の港に出て舟を買い、僧形のまま薩摩にお帰りになりました。

それから後の島津家は、平等寺を特に大事にされました。江戸時代の中頃、平等寺の不動堂を一寄進で建立され、幕末までの300年間、毎年鹿兒島米40石(153俵)とご祈祷料銀5枚を奉納され、今もなお、その書状が残っております。

尋ねると、貴女は、「こ

まが「あなたさまのお名前をおきかせ下さい」と尋ねると、貴女は、「こ



三輪上人・慶円禅観大和尚頂相

徳川の追っ手が来ましたが、その当時の住職が、「そんな者はいない、疑うならばさがせ」と一喝したのです。

元天理大学教授の平井良朋さんの説が、平成22年8月6日発行の奈良新聞に掲載されました。こ

皇室の祈願をするお寺で、徳川幕府から80石の朱印を受け、島津家からも40石の加護を受けたのです。



2010年8月6日
奈良新聞に掲載

これは、大神神社広報誌「大美和 119号」で論文「三輪山平等寺と、薩摩国島津氏」で発表された内容であります。その中で、関ヶ原の戦いで、島津軍が通った退路は名張（現三重県名張市）から奈良県桜井市三輪の平等寺に入り、大阪堺へ逃れた、とする説を述べられています。以下記事の内容を転載します。

関ヶ原の戦（1600年）で東軍に追われることになった薩摩の島津藩は、伊賀国名張から桜井市三輪の平等寺に入り、大阪・堺に逃れた。「薩摩公伝」の信楽—奈良通過説に対し、樞原市醍醐町の元天理大学教授（日本史）、平井良明さん（88）が新説を発表した。

「鍵握る修験道の大先達」関ヶ原脱出当夜、東軍の追撃を振り切った島津軍勢約80人は現・滋賀県彦根市でのいだ。その後のルートについて、鹿児島県では信楽町から奈良市内、暗峠越えで大阪入りと伝承されている。大将・島津義弘は、大阪から航路で無事薩摩に帰国した。

平井さんの説は、彦根市を出た一行は水口町より4キロ南の飯道山梅本坊（甲賀市信楽町）で一泊。翌日、名張市を経由して笠間峠



1997年、島津家と交流し、島津義弘公の墓に参拝

（奈良県宇陀市室生区）から三輪山に入り、平等寺へ。山伏の護衛で、島津公のみを竹内峠越えで堺市の商人の元へ送り届けたとする。

研究のきっかけは昭和33年、「大三輪町史」編さんに伴う調査で目に留まった慶長5（1600）年の古文書。島津家重臣の連名で、「三輪山大先達」から金を借用したことが記されていた。以来、平等寺と島津家の関係に注目することになった。

その後、天理大図書館蔵の古文書から、島津退軍が

「伊賀国名張」を通過したと確信。帰国後に島津義弘が協力者に与えた感状にも「伊賀」と記されていた。信楽—奈良では伊賀を通ったことにならない。

平井さんは、信楽—奈良通過説の流布は、徳川方の処罰が協力者に及ぶことを避ける島津公の「陽動作戦」だったと結論付けた。

平井説で鍵を握るのは修験道の大先達。島津家は、遅くとも平安時代後半から修験道を信仰対象としていたという。平等寺に大峰山修行の代参を頼むなど長年のかかわりも分かった。

また平等寺は、江戸中期以後、急激に寺勢が衰えること、建造物の修理費用をと、「薩州様」に懇願し、数度、多額の援助を受けた記録も残されている。今は廃寺だが、飯道山も大先達寺院の系譜をひく。

平井さんは論文「三輪山平等寺と薩摩国島津氏」を、先月発行の大神神社広報誌「大美和」（119号）で発表。「50年がかりの調査



奈良県の情報誌「ぽーぷる」に掲載されました。身体と呼吸と心を整えましょう。

日曜坐禅会



三輪山平等寺が大和桜井百選に選ばれました。桜井市のホームページに掲載されています。

研究になり、長かったが楽しかった」と話している。

大和桜井100選

「絆」

岡本 幸夫

百歳で亡くなった母、「幸夫、幸夫」と言い続
けて亡くなった母、厳し
かった母、でも、心優し
かった母。平等寺の行事
には必ず行って、白いエ
プロンを着けていそいそ
と働いていた母の姿が目
に焼き付いて離れません。
私の仕事の都合で田原
本苑に入所して頂きまし
たが、三日も空けずに会



1964年10月4日 大本山永平寺団参

いに行きまして、一分間
ほど、じつと抱きしめて
やります。涙を流して喜
んでくれました。「幸夫、
幸夫」という母の言葉が、
田原本苑で有名になる程
でした。亡くなって八年
になりましたが、一日とて
忘れた事はありません。
私と母は義理の親子で
す。血の繋がりに関
係ありません。大切な
は、心と心です。今日、
私達が幸せに暮らせるの
は母のお蔭と心から感謝
しております。私は本当
に母が好きでした。私と
母は「絆」と言う一本の
紅い糸で結ばれていたの
だと思えます。



奈良県梅花講創設60周年・第40回奉詠記念大会

赤門階段修復の報告

昨年の台風の影響によ
り大きな杉が傾き階段が
壊れましたので修復しま
した。また、紅葉の根に
押し崩れかけていた石
垣も修復します。三輪山
平等寺護学会のご協力に
感謝します。



7月第2日曜日 作務の日

年間行事予定

- 【一月】一〜三日 修正会
十二日 正午 昼食
十三時 初護摩会
- 【二月】三日 十時 星祭会
十五日 七時 涅槃会
- 【三月】二十一日十四時彼岸会
- 【四月】五日 十時 大護摩会
花祭り「ちごねり」募集
- 【七月】上旬 本山研修会
十二日 作務の日
下旬 子供坐禅の集い
- 【八月】一日 九時半 最勝会
二十三日十三時 地藏会
- 【九月】二十三日十四時彼岸会
- 【十月】下旬 梅花大会
- 【十二月】一〜八日 朝六時
撰心会並びに成道会
上旬 歳末托鉢行
二十一日十四時終護摩会
三十一日 除夜の鐘

月間行事予定

- 一・十五日六時 祝祷朝課
- 四〜二十九日 月仏参
- 十八日十三時 梅花講
- 二十四日十四時 水子供養
- 二十八日十四時 護摩会
- (一・四・十二月は右記参照)
- 日曜日六時半 坐禅会

みー子が行く⑨

お寺では午前6時に鐘
をつき、お参りがありま

す。焼香の後振り向くと、
本堂前にみー子とフワワ
が、じつと中を見ていま
りした。きつと一緒にお参
りしているのでしょう。
峰の色 溪の響きもみ
なながら わが釈迦牟尼
の 声と姿と (傘松道詠)

テレホン法話

曹洞宗布教師の「心の法話」
が電話で聞けます。
近畿内0120148740
近畿外0753514443

案内

お寺のホームページが
あります。ぜひ、ご覧く
ださい。
<http://www.byodoji.com/>

三輪山裏

曹洞宗近畿管区教化セン
ターが坐禅のアプリを作成
しました。お暇なときに、
見てください。坐禅のやり
方も分かります。孝仁合掌



Androidはこちら



iPhoneはこちら